# 29［詩］『詩を読む人のために』

地面の底の病気の顔

①　地面の底に顔があらはれ、

②　さみしい病人の顔があらはれ。

③　地面の底のくらやみに、

④　うらうら草の茎がえそめ、

⑤　の巣が萌えそめ、

⑥　巣にこんがらかつてゐる、

⑦　かずしれぬ髪の毛がふるへ出し、

⑧　冬至のころの、

⑨　さびしい病気の地面から、

⑩　ほそい青竹の根がえそめ、

⑪　生えそめ、

⑫　それがじつにあはれふかくみえ、

⑬　けぶれるごとくにえ、

⑭　じつに、じつに、あはれふかげに視え。

⑮　地面の底のくらやみに、

⑯　さみしい病人の顔があらはれ。

　『月にえる』巻頭の一章である。上田敏博士の『［　　ａ　　］』によって西欧①サンボリズムが私どもの詩壇に範例を示されて以後、・、・の時代を経て、やがて口語自由詩の時代に移りるその機運と二重に絡まり合いつつ、先のサンボリズムはたとえばやにおいてさすがに大きく局面を一転しながら、いわばこの国独特の象徴的作品を生むに至った。『月に吠える』は日夏さんの『転身之』とともに②この時期を代表する不朽のモニュマンであろう。萩原さんにおけるサンボリズムは、その円転自在な柔軟を極めた③日用口語の異様なリズム、病理的な感覚、内的幻影を生みつつ蛇行してゆく語法口気の、その進行停止の息づかいの間に、あやしく発光しながら、えがたい精霊のようにまっている。サンボリズムは即ち最も内的な詩的実体を実体のままで直ちに再現しようとするものであろうから、それを他の計数に置きかえ数え直して説明しようとするのは、元来無理な話であって無意味に近い。

　《地面の底のくらやみに、／さみしい病人の顔があらはれ。》は、それだけで以てまったく完結しているのであるから、その外に一切、何ものもない、ものとしては読者はまるごとそれをみこむより外に、読み方はない。

　《　　Ａ　　》と詩はどこまでも進行形で、どこまでも不安定に、しかもと足拍子を踏んで進んでゆくもそこにあるのである。「鼠の巣が萌えそめ」というような変てこなことが、ただ一つその意識にこんがらかって飛び出しても来るのである。

　《　　Ｂ　　》とこの詩が見えれば、つまりこの詩の読み方は完了したのである。あるうら若い、な、極度に鋭い神経をもった一人の詩人が、ある苦しい時期に、ある苦しい考えの底で見つめたものを、読者もまた傍らから見たことになるだろう。

●語注

モニュマン＝記念碑・記念物。

口気＝口振り・しゃべり方。

問１　空欄ａに入る詩集名を答えよ。3点

〔　　　　　　　　　　〕

問２　傍線部①とは何か。漢字四字で答えよ。4点

〔　　　　　　　　〕

問３　空欄Ａ・Ｂには「地面の底の病気の顔」の一節が入る。Ａには四行、Ｂには三行の、連続した行が入る。それぞれ行番号で答えよ。4点×2

Ａ〔　　　　　　　　〕　Ｂ〔　　　　　　　　〕

問４　傍線部②とはどのような時期なのか。本文中の語句を用いて説明せよ。10点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部③が生み出されているのはどのようなことによるのか。その理由として正しいものを次から二つ選べ。4点×2

ア　七音、五音の多用　　　イ　体言止め

ウ　行あき　　　　　　　　エ　同音語の反復

オ　擬声語、擬態語の多用

〔　　　〕

問６　「地面の底の病気の顔」に用いられていない技法を次から二つ選べ。4点×2

ア　反復法　　　　イ　倒置法

ウ　擬人法　　　　エ　連用中止法

オ　対句

〔　　　〕

問７　「地面の底の病気の顔」を起承転結に分けるとすると、承・転・結はそれぞれどこからか。行番号で答えよ。3点×3

承〔　　　〕　転〔　　　〕　結〔　　　〕

【解答】

問１　海潮音

問２　象徴主義

問３　Ａ＝④⑤⑥⑦　Ｂ＝⑫⑬⑭

問４　サンボリズムが口語自由詩の中で実現された時期

問５　ア・エ

問６　イ・オ

問７　承＝③　転＝⑫　結＝⑮

■覚えておきたい語句

□4　勃興……………………急に勢いが強くなること。

□4　機運……………………時勢のなりゆき。

□8　不朽……………………長く価値を保ち後世まで残ること。

□9　円転自在………………言動が意のままになめらかに行われるさま。

□10　幻影……………………現実には存在しないが、あるように見えるもの。

□11　蛇行……………………蛇のように曲がりくねっていること。

□12　精霊……………………自然界に宿っているとされる超自然的な存在。

□22　確乎……………………たしかなさま。しっかりとして動かないさま。

〔要　約〕

《本文を形式段落［4］段落で考える》

［1］　この詩は『月に吠える』（萩原朔太郎）巻頭の一章。本詩集はサンボリズムが口語自由詩の中で実現された記念碑的なもの。

「地面の底の病気の顔」の解説

［2］　最終二行の説明

［3］　二連目前半部の説明

［4］　二連目最終部の説明

　　　　↓

「地面の底の病気の顔」は『月に吠える』巻頭の一章。これはサンボリズムが口語自由詩の中で実現された記念碑的な詩集。サンボリズムは詩的実体をそのまま再現しようとする故、他のもので説明するのは無意味に近い。（100字）

〈作者＆出典〉三好達治（みよし・たつじ）一九〇〇年（明治33）〜一九六四年（昭和39）大阪府生まれ。詩誌「四季」を創刊し、同人として活躍するなど、昭和を代表する詩人の一人。詩集に『測量船』『千里』『のにまたがつて』などがある。本文は、『詩を読む人のために』（岩波文庫、一九九一年）より。

【読みのセオリー】

★詩のさまざまな技法

　韻律・リフレイン（反復法）・比喩・擬人法・対句……詩にはさまざまな技法が用いられている。どこにどのような技法が用いられているか、その効果はどのようなものか、と考えていくことで詩を読み解いていくことができる。

■読みのセオリー［実践］詩のさまざまな技法

問５

イ　体言止め

句末や文末を

［１　　　　］で終わる技法。

［２　　　　］を残す効果。

ウ　行あき

視覚的にその前後を隔てる効果。

エ　同音語の反復

１・２・16行目では、

［３　　　　］

４・５行目では、

［４　　　　］

10・11行目では、

［５　　　　］

12・13・14行目では、

［６　　　　］

……同じ音の繰り返しの効果を考えよう。

〔解答〕　１名詞（体言）　２余韻　３あらはれ　４萌えそめ　５生えそめ　６みえ

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問６　詩の、１・２行目「あらはれ」、４・５行目「萌えそめ」、７行目「ふるへ出し」などに見られる技法を何というか、漢字で答えよ。

　［答］　連用中止法

＊新問

問８　空欄には、『月に吠える』の作者名が入る。漢字で答えよ。（５行目「萩原朔太郎」を空欄に）

　［答］　萩原朔太郎